

凶夢など30
星新一



凶夢など30
星新一

新潮社
(4/15刊・¥830)

最新短篇集。標題通り、三十篇の作品を収録している。夢、そのものを主題にした作品こそ少ないけれど、幻想に一步足を踏み入れた、味のある短篇が並んだ。

ふと、自分の現在に疑問を感じた男の知った真実とは——「好奇心」。安アパートに住む失業中の男、だが実際は——「ある一日」。別荘で出会った女、体のホクロを消す度に、女は変わっていく——「夏の女」。いつもの生活と、その生活をひっくり返した先に隠れているもの。現実の切れ目にのぞく世界は、しかし意外に明らかにされない。オチがあつて終わりかと思うと、答のない結末もかなりあるのだ。「宿直」とか「印象」には、日常を犯す現象の、説明が付けられていない。不安定感と、主人公の諦めに終わっている。

ここに入ったショート・ショートは、教科書的な枠を越えたものが多いはずなのに、意外に安定した偏りのなさを感じる。技巧の牙えが、本来不安定な結末に、安定した落ち着きを与えていると思われる。小説の組み立て、アイデアの生かし方等が、よく計算されているのは確かだ。今さら言うことでもないが、やはり円熟の味だろう。